ZERO EMISSION

市民が見た ドイツの環境政策とまちづくり

ドイツ環境先進都市への市民派遣報告

市では、市民や行政が環境をよくする活動に役立てるため、11月23日～12月1日の日程で公募により選ばれた12名の市民をドイツに派遣しました。市民が見たドイツの優れたとりくみと派遣者の声をご紹介します。（ゼロミッション推進室）

ハイデルベルグ市旧市街のメインストリート。商品の搬入など車の通行は午後1時まで。それ以降は車の通行が禁止され、通りには大道芸人なども登場し大勢の人でにぎわっていました

市民派遣団のみなさんにお聞きしました。

①ドイツのまちのようすを見てどう感じましたか。
②日頃、環境を守るため、私達一人ひとりはどのような行動をしたらいいと考えていますか。
③今後、市の環境行政に生かしてほしいドイツの事例をあげて下さい。

新城　日出子（主婦）

□まちがきれいで散乱ごみや犬のふんなどはないことに感心しました。
□ごみをしっかり分別すること。ペットの飼い主は責任をもつこと。
□一人一人が責任を持って環境に配慮した取り組みを行えるような啓発活動を進めてほしいと思います。

玉寄　義治（中学教諭）

□まちの景観が統一されている事は素晴らしい。都市づくりにコンセプトやポリシーがあるのが良い。
□正しいごみの分別、ごみを出さない暮らし。
□売電システムの支援、市や市有地での催しで使い捨て容器の禁止、学校で省エネ節電すると予算が学校へ還元される仕組み、エコステーションのような環境教育施設づくりなど。

細谷　幸代（会社員）

□システム（背景）が整っている。
□小さな事も、一瞬考えて行動する習慣をつける。
□小・中学生への広い環境教育及びゴミ処理体制。

石川　智恵（開邦高校2年）

□幼い頃から環境に関心を持ち始める子供が多い。
□ごみが多く出るものを買わない。
□イベントでのリユースコップ（食器）の利用。

祖慶　晃子（沖縄尚学高校1年）

□環境問題について子供たちや学校も真剣に取り組んでいることに感心しました。
□小さなことでも自分のできる範囲から行動してみることだと思います。
□特にドイツの環境教育について教えないのとではそれに関する考え方もだいぶ違うと思います。

上原　輝光（派遣団団長 / 宮城自治会長）

□ドイツの人達の古い街並みや物を大切にする心が感じられました。ライン川や黒い森などに対する愛着がその背景にあると思います。
□環境保全行動計画（市民編）の実践。
□太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入促進。

平川　宗隆（獣医師）

□幼少時からの環境教育は重要、学ぶ必要あり。
□市民の環境に対する意識改革と啓発活動。
□祭りにおける使い捨て容器の廃止。

阪井　暖子（まちづくりプランナー）

□メルヘンだ、と思いました。そこに暮らし、息づいている人達が自分たちには何が必要なのかをよく知っていると思いました。
□例えば十年後どんな那覇になっていたら、もっと気持ちよく住めるかを想像すること。そして、ほんのちょっと今できることをしてみること。
□環境政策はいろいろな方面（ゴミ、エネルギー、交通政策、緑や自然の回復等々）から複合的に行っていくことが大切。何よりも大切なのは環境教育。

フライブルグ旧市街を走る路面電車と自転車。市街地のあらゆるところに路面電車やバスなどの公共交通機関が整備され、車を利用しなくても不自由しないようになっています

機械で積み込み。収集員のユニフォームもかっこいい！

人と街にやさしい交通

アウトバーンという無料高速道路が有名な車の国ドイツですが、地方都市では様々な車交通対策が実施されています。

フライブルグやカールスルーエでは、街中と近郊住宅地、近郊都市との路面電車、バスなどの公共交通ネットワークの整備や自転車道整備に力を入れ、街中の車交通を制限していました。車交通量を抑制することで美しい街並みや歴史的遺産、歩行者にとっての快適な空間を守ろうとしているのです。二酸化炭素をふくむ排気ガスの発生量を抑えることにも一役かっています。

交通政策の中でもユニークなのはフライブルグ一帯で利用されている「レギオカルテ」と呼ばれる交通定期券です。この定期券は、圏内の公共交通機関が乗り放題で、本人以外への貸し借りも自由だそうです。また、月曜から金曜日まではひとり限りですが、土日は本人以外に大人一人と子供四人分、つまり家族で利用できるという優れものです。

ドイツのごみ事情

「フライブルグ市（ドイツ全般的に）の家庭ごみの出し方は、市から配布された回収容器（ボックスタイプ）に入れ、門口に出す方式です。

紙類はひとつにまとめ緑の容器に入れます。生ごみ・ティッシュペーパー・落ち葉などは茶色の容器に入れます。これは市の処理施設でメタンガス発電を行い、余熱を利用後、堆肥化処理をしています。

資源化できない紙おむつや汚れたプラスチックごみ、あるいは分別していないごみなどは、灰色の容器に入れ、埋め立て処理をしています。

缶・プラスチック容器・紙パックなどの容器包装類は黄色い袋に入れます。

リユースびん以外のガラスびんは、市内各所の回収ボックスに各自で出しています。

その他に、市内2カ所にリサイクリングホフという集積施設があり、家具や布・ペビー用品などリユース可能なものの受け入れを行っています。

気になるごみ収集料金ですが、フライブルグ市のごみ処理経費はごみ収集料金でまかなっており、一般市税の負担はありません。そのため、日本に比べて数倍高くなっています。

回収容器を含め1世帯当たりの基本料金は年間約5千円、灰色の容器はごみ量に応じて費用が上乗せされるしくみで、平均的な（3人世帯）負担額は年間1万5千円程度となっています。

ごみ回収容器。緑色の容器は紙類、茶色の容器は生ごみや落ち葉など。ごみ量に応じて収集料金が異なる。容器包装類は黄色の袋に入れ、回収・リサイクル費用は製造・販売事業者が負担しています

風格ある美しいまちをめざして シリーズ

③エコアンテナショップ「Z・E・N」

「すてないで ぼくのみらいは これからだ」

ZERO EMISSION

ゼロエミッション推進室☎861-3244

エコアンテナショップ「Z・E・N（ゼロエミッションなは）」は、グリーンコンシューマーの拡大とエコ商品の流通促進を図るために、平和通りにオープンした情報発信コーナーです。グリーンコンシューマーを直訳すれば「緑の消費者」。緑は地表を覆う植物の色、つまり地球の生命の色を代表しています。自然界の生態系（生命の連鎖）に配慮した商品を選んでエコライフを実践するのが緑の消費者。財布のひもを握っている消費者の意識が企業を変え、政治を変え、社会を変えていきます。

水や空気がきれいなこと、食べ物を作る土が安全であることは健康な生活の原点。エコライフとは生命の多様性を尊重する心豊かな生活スタイルのこと。あなたも緑の消費者をめざしませんか？

Z・E・Nでは、エコライフの達人「アースの会」が市民のエコライフを応援するためにいろんな企画を考えています。今、取り組んでいるのは、ひとつでもエコマップ。環境に配慮した商品を売っているお店、容器を回収・再利用しているお店、ごみ減量に取り組んでいるお店等を調べています。マイバッグ持参でいつも利用するお店がどんなエコ活動をしているのか観察するのも楽しいですね。こんな消費者が増えれば沖縄もすいぶん変っていくでしょう。

また、Z・E・Nでは生活に役立つエコ商品や環境先進国スウェーデンから取り寄せたエコ商品も展示してあります。いちどZ・E・Nをのぞいてみませんか？

イベント会場で食器の使い回し（フライブルグ）

ドイツでは、できるだけごみを出さない。それでも出るごみは可能なかぎりリサイクルするとりくみが各地で行われています。フライブルグ市では、市の催しや市の土地で行われる催しでは、使い捨て容器の使用は禁じられています。市役所前広場でおこなわれているクリスマスマーケットでは、リユース（使い回し）の食器が使用されています。缶飲料や紙皿などは一切使われていません。

マーケット内で販売している飲み物にはガラス製のコップが使われています。

お客さまは買うときにコップ代金（60円くらい）を上乗せして支払い、コップをお店に返すと代金が払い戻されます。デポジット制で返却されたコップや皿は、マーケットの近くに設置したコンテナ内の自動食器洗浄機で洗って繰り返し使っています。このとりくみで、ごみがずいぶん減ったそうです。

このほか、大型堂前広場で行われている朝市でも、野菜やくだものは、はかり売り。ほとんどのお客がマイバッグ持参で買い物をしています。

エコホテル「ヴィクトリア」のとりくみ

フライブルグ市内のホテル「ヴィクトリア」は、環境に配慮したとりくみで有名です。ホテルからでるごみを減らすため、朝食時の使い捨て容器はありません。飲み物はできるだけリタ－ナブルびんを使っています。浴室では詰め替え式の石鹸とシャンプーのみ置いています。

省エネや再生可能エネルギーの利用にも熱心で、ホテル内の照明や電気機器はすべて省エネタイプ。屋上には太陽光発電装置、地下には間伐材チップを利用した暖房装置があります。

オーナーのシュペートさんは、「専門家の意見をきいて、お客さまへのサービスを損なわないように環境対策を進めたことで、宿泊客が増え売り上げも伸びた。環境を守るための投資は、利益につながる」と話していました。

フライブルグ市のクリスマスマーケットで使用されているリユースコップ。ガラス製で温かい飲み物にも冷たい飲み物にも使えます。預かり金は、0.5ユーロ（約60円）

作業員の腰痛防止対策のキャスター付回収ボックス

ホテルヴィクトリアのソーラーパネル。ホテルの消費電力の一部をまかなっている

クリスマスマーケットで使用後のお皿を洗っているところ。熱湯をつかって食器洗浄機で洗うので衛生的

福岡　智子（NPO団体）

□地域の課題に関わり、チャレンジする市民の気概を感じました。
□目標を明確にし、次世代の環境を見据えた対策を立て、市民参加で目標達成できる仕組みをつくること。
□環境教育の充実。NPO・企業・学識者（専門家）・行政間のパートナーシップの形成。

仲松　たくみ（琉球大学3年次）

□ドイツ流の「古いものを大切にする」といったような文化・価値観がそこに根付いているのだというところです。
□買い物をする際、ゴミを捨てる際に「どう役立てればいいのだろうか、どう処分するのだろうか」と考えることから始まるのだと思います。
□自転車専用道路や駐輪場制度などを活かすことが出来たら素晴らしいと思います。

當山　真由美（会社員）

□それぞれのまちに対する誇りや、歴史・文化・感性を感じました。
□ごみを出さない。少しの手間と不便を楽しむ生活行動。
□ごみ収集や料金徴収の方法、誰もが使いたくなる公共交通システムの導入。

12月30日（月）、12月31日（火）は通常通りのごみ収集となります。

12月28日（土）、29日（日）、1月1日（水）～5日（日）はお休みです。（環境業務課　☎889-3092）